



2016 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第2戦

2016 NGKスパークプラグ 鈴鹿2&4レース

TOHO Racingレースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

4月23日(土曜日) 天候：曇り 路面:ドライ

公式予選／2' 08" 218 6番手

4月24日(日曜日) 天候：曇り 路面:ドライ

決勝／5位 (29周)

開催地:三重県・鈴鹿サーキット

入場者数:54,000人 (土・日合計)

全日本JSB1000クラスで5年目を迎えるTOHO Racing。今シーズンもHonda CBR1000RRのキット車両にサスペンションはKYBという部分は変わらないがブレーキシステムをブレンボに変更した。しかし、鈴鹿でドライコンディションを走ることができずにレースウィークを迎えていた。

全日本ロードレース選手権は、今回が第2戦だが、JSB1000クラスは初開催となり、事実上の開幕戦となる。今年も4輪のスーパーフォーミュラとの2&4レースだが、鈴鹿8耐へのトリアウトもあり、エントリーは何と81を数えた。レースも200kmとなり、最低1回のピット作業が義務付けられるセミ耐久で争われた。

木曜日の特別スポーツ走行から始まったレースウィーク。山口はBグループでの走行となるが、1本目が始まった直後から雨が落ちてきてしまう。ドライでマシンセットを少しでも進めたいところだけに、不運な雨となってしまう。2本目は完全なウエットコンディションとなり、金曜以降はドライとなる予報が出ていたこともあり、2本目は走らないことを選択していた。

ドライで走ることを切望していたが、金曜日は朝方まで雨が残り、1本目はウエットからスタートし徐々に乾いて行く路面コンディション。少しでもセットを進めただけにレインタイヤを履いてコースイン。ブレーキのフィーリングとサスペンションのバランスを煮詰めて行く。

土曜日の公式予選は35分1セッションで行われた。この予選もマシンセットを進めながら最後にアタックし、2分08秒218で6番手タイムを記録。セットアップも急ピッチで進んでおり、決勝に向けての仕上がりは、いつものレースウィークに比べても早い方だった。

決勝日は、青空が見え気温も上がったが風がやや強いコンディション。マシンにライダーが駆け寄るル・マン式スタートでレースは始まった。このスタートを山口は得意としており、鈴鹿8耐でも好スタートを切ったことがある。今回もスタートを決めた山口は、2番手で1コーナーをクリア。オープニングラップは、3番手で戻って来るが、その後はトップ争いについていくことができず、セカンドグループで周回を重ねる。

ピット作業は、予定通り17周目に入り、ガソリン補給とタイヤ交換を行う。素早い動きを見せたチームスタッフだったが、実は、セミ耐久レースということで初めてチームに合流したメンバーもあり、決勝日の朝に初めて全員そろっていた。それぞれが、それぞれの役割をしっかりと果たし、山口をコースに戻してくれた。山口は、そんな想いに応えようと追いついて行く。24周目には、高橋巧選手の背後につけるとヘアピンでインからパスすることに成功。その後、最終コーナーで転倒するアクシデントが発生し、赤旗中断。そのままレース成立となり、山口は5位でフィニッシュ。Honda勢最上位で2016年シーズン初戦を終えた。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「まずは、今シーズンも多くの方の応援のおかげでJSB1000クラスに参戦できることを感謝いたします。今回は、鈴鹿をドライで全く走ることができずにレースウィークを迎えましたがKYBさんと協力し合って短い期間でレースまでセッティングを進めることができました。ル・マン式スタートは、自信がありましたし、そのままトップに付いていきかけたのですが、長丁場のレースでしたし、タイヤマネジメントも考えながら走っていました。チームもミスなくピット作業をしてくれたので追いつけることができ、Honda最上位になることができました。次戦のツインリンクもてぎは、事前テストで、もっとレベルの高い車両をつくり、トップグループに加われるように努力します」

チーフメカニック 戸井田剛

「今年からブレーキシステムをブレンボにしたのですが、事前にテストする機会が少なく、特に鈴鹿ではドライで全く走ることができていませんでした。そんな状況の中でレースウィークを迎え、天気も恵まれず限られた時間の中で、KYBさんのご協力もあり、いい状態でレースに臨むことができました。ライダーも頑張ってくれましたし、順位的には満足できるものではないのですが、Honda 最上位でゴールすることができました。200km という長丁場のレースでしたが、チームのみんなもミスなくこなしてくれましたし、レース内容はよかったです。ブレンボのブレーキもいい手応えがありましたし、次戦以降、さらに上位を目指して行きます」

総監督 福間勇二コメント

「まずは、今シーズンも最高峰クラスに挑むことができますことを、御協力、御協賛いただいておりますスポンサーの皆様、そして、いつも応援してくださっている皆様に感謝を申し上げます。開幕戦は5位入賞という結果となりました。次戦もチーム一丸となって挑む所存でございます。何卒宜しくお願い申し上げます」



株式会社 TOHO
TOHO Racing
担当 三山